

# 児童養護施設入所児童等調査結果の要点

(平成20年2月1日現在)

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

平成21年7月

# 児童養護施設入所児童等調査結果の要点

## I 調査の概要

この調査は、家庭状況等主として環境上の理由により、児童福祉法に基づいて、里親に委託されている児童、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童、母子生活支援施設を利用している母子世帯の児童並びに保護者の実態を明らかにして、要保護児童の福祉増進のための基礎資料を得ることを目的とした。

調査の対象及び客体は、全国の里親委託児童、児童養護施設（平成20年2月1日現在565施設）、情緒障害児短期治療施設（同28施設）、児童自立支援施設（同58施設）及び乳児院（同119施設）の入所児童並びに母子生活支援施設（同273施設）の児童及び保護者を対象として、その全員を調査客体とした。

調査の時期は、平成20年2月1日であり、これまで5年度ごとに実施してきた。

調査の方法は、「II 調査結果の要点」の1～5については、里親委託関係は委託家庭を訪問するなどにより児童相談所が、入所施設関係は施設長が記入し、6及び7については、児童養護施設及び児童自立支援施設の年長児童がそれぞれ直接記入することにより実施した。

## II 調査結果の要点

### 1 児童の状況

#### (1) 現在委託中の児童数等

前回調査に比べ、平均年齢（調査時点）及び委託（入所）時の平均年齢については里親委託児童の年齢が上昇した以外は大きな変化はない。児童の平均委託（在所）期間についても、大きな変化はない。

なお、里親委託児及び入所児童の総数は前回38,318人より3,284人増加し、41,602人（母子施設児を除く。）となっている。（P2表1、P3表2、P4表3）

	児童総数		平均年齢	委託（入所）時の平均年齢	平均委託・在所期間	
	男	女				
里親委託児	3,611人 (2,454)	1,817人 (1,252)	1,790人 (1,200)	9.3歳 (8.5)	5.5歳 (4.4)	3.9年 (4.2)
養護施設児	31,593人 (30,416)	16,908人 (16,397)	14,555人 (13,897)	10.6歳 (10.2)	5.9歳 (5.9)	4.6年 (4.4)
情緒障害児	1,104人 (768)	641人 (443)	462人 (321)	12.4歳 (12.5)	10.6歳 (10.8)	1.9年 (1.7)
自立施設児	1,995人 (1,657)	1,355人 (1,136)	622人 (515)	14.2歳 (14.2)	13.1歳 (13.1)	1.1年 (1.0)
乳児院児	3,299人 (3,023)	1,826人 (1,670)	1,467人 (1,337)	1.2歳 (1.0)	0.3歳 (0.2)	1.1年 (0.9)
母子施設児	6,552人 (7,089)	3,257人 (3,565)	3,272人 (3,484)	7.3歳 (7.8)	5.2歳 (5.1)	* (* )

注) ( ) は前回調査。\*は調査項目としてない。児童総数には性別不詳を含む。

## (2) 委託(入所)経路

里親委託児については、「家庭から」が44.3% (前回34.7%)、「乳児院から」が27.0% (前回32.6%)、「児童養護施設から」が19.7% (前回23.7%)が多い。一方、養護施設児、情緒障害児、自立施設児及び乳児院児では、「家庭から」が、それぞれ71.5% (前回74.1%)、79.8% (前回84.8%)、63.5% (前回65.3%)及び86.2% (前回75.4%)とそのほとんどを占めている。

また、児童自立支援施設では、家庭裁判所からの決定によるものが17.4% (前回17.0%)である。(P5 表4)

## (3) 就学状況

措置児童の就学状況をみると、里親委託児及び母子施設児では「就学前」が最も多く、それぞれ34.0% (前回41.8%)、42.1% (前回41.2%)となっている。養護施設児、情緒障害児及び自立施設児では「中学校」がそれぞれ22.7% (前回21.4%)、40.6% (前回45.8%)、74.0% (76.4%)となっている。(P5 表5)

(単位：%)

	総数	就学前	小学1～3年	小学4～6年	中学校	中学卒	
						高校	その他
里親委託児	100.0	34.0% (41.8)	17.6% (14.3)	15.6% (14.7)	15.8% (14.3)	14.2% (12.9)	2.6% (2.2)
養護施設児	100.0	20.2% (23.2)	18.5% (20.4)	22.4% (20.8)	22.7% (21.4)	14.2% (12.9)	1.3% (1.2)
情緒障害児	100.0	0.3% (1.2)	13.1% (13.7)	32.7% (28.8)	40.6% (45.8)	11.6% (9.2)	1.7% (1.3)
自立施設児	100.0	— —	0.9% (0.8)	9.3% (9.5)	74.0% (76.4)	5.1% (3.0)	10.7% (10.3)
母子施設児	100.0	42.1% (41.2)	19.9% (22.2)	17.6% (18.0)	12.2% (11.9)	4.8% (4.9)	0.8% (1.3)

注) ( ) は前回調査

## (4) 心身の状況

児童の心身の状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児及び母子施設児において「障害等あり」の割合が、それぞれ18.0% (前回12.6%)、23.4% (前回20.2%)、70.7% (前回59.5%)、35.4% (前回27.3%)、32.3% (前回30.4%)、16.3% (前回12.5%)となっており、いずれも増加している。(P6 表6)

(単位：%)

	総数	障害等あり	障害等あり内訳 (重複回答)									
			身体虚弱	肢体不自由	視聴覚障害	言語障害	知的障害	てんかん	ADHD	LD	広汎性発達障害	その他の障害等
里親委託児	100.0%	18.0% (12.6)	2.6% (1.7)	0.7% (0.6)	0.9% (0.8)	0.7% (1.3)	6.6% (4.7)	0.7% (0.6)	1.5% (1.0)	0.5% (*)	2.0% (*)	4.2% (3.9)
養護施設児	100.0%	23.4% (20.2)	2.4% (2.5)	0.4% (0.4)	0.8% (0.8)	1.3% (1.4)	9.4% (8.1)	1.2% (1.4)	2.5% (1.7)	1.1% (*)	2.6% (*)	7.3% (8.3)
情緒障害児	100.0%	70.7% (59.5)	0.6% (3.0)	0.5% (0.8)	0.3% (0.1)	0.4% (1.0)	10.7% (8.3)	2.1% (1.7)	11.9% (9.1)	3.2% (*)	16.8% (*)	44.9% (49.6)
自立施設児	100.0%	35.4% (27.3)	1.0% (1.3)	0.3% (0.1)	0.6% (0.4)	0.6% (0.4)	9.3% (8.6)	1.6% (1.6)	9.0% (7.5)	3.2% (*)	7.3% (*)	13.2% (13.0)
乳児院児	100.0%	32.3% (30.4)	20.4% (20.9)	3.2% (3.0)	2.8% (2.4)	3.1% (2.9)	5.5% (4.9)	1.8% (1.8)	0.2% (0.2)	0% (*)	0.9% (*)	8.6% (8.2)
母子施設児	100.0%	16.3% (12.5)	3.4% (3.4)	0.4% (0.4)	0.4% (0.5)	1.0% (0.9)	3.8% (2.9)	0.8% (0.9)	1.3% (0.8)	1.0% (*)	1.9% (*)	6.1% (5.3)

注) ( ) は前回調査。\*は調査項目としていない。

## (5) 特に指導上留意している点

指導上留意している点については、全員が「留意している点あり」と答えている。

「心の安定」を留意点としてあげているのは共通している傾向であるが、里親委託児では次いで「里親との関係」が35.5%（前回38.8%）、養護施設児では「家族との関係」53.7%（前回50.1%）、情緒障害児では「家族との関係」67.2%（前回66.0%）、次いで「友人との関係」61.7%（前回59.1%）、自立施設児では「社会規範」56.6%（前回53.1%）、「家族との関係」55.0%（前回55.6%）、母子施設児では「家族との関係」41.1%などが多くなっている。

逆に里親委託児の「家族との関係」は低い割合19.8%（前回14.5%）となっている。（P7表8）

	総数	留意している点あり	留意点（重複回答）							
			心の安定	友人との関係	家族との関係	学習の興味・関心	しつけ	心理的対応	社会規範	職員（里親）との関係
里親委託児	100.0%	100.0% (89.0)	48.0% (47.3)	17.8% (17.3)	19.8% (14.5)	20.5% (16.9)	28.4% (32.8)	6.6% (4.4)	9.3% (8.1)	35.5% (38.8)
養護施設児	100.0%	100.0% (98.8)	66.9% (64.8)	38.5% (34.6)	53.7% (50.1)	34.9% (35.9)	38.3% (45.4)	18.2% (15.7)	20.6% (18.3)	31.9% (26.9)
情緒障害児	100.0%	100.0% (99.9)	59.5% (61.3)	61.7% (59.1)	67.2% (66.0)	31.1% (26.6)	23.0% (28.5)	45.7% (64.2)	24.9% (20.4)	36.9% (36.3)
自立施設児	100.0%	100.0% (99.8)	61.8% (61.1)	47.3% (46.3)	55.0% (55.6)	33.3% (32.3)	28.1% (37.5)	14.5% (10.6)	56.6% (53.1)	31.4% (29.1)
母子施設児	100.0%	100.0% (83.8)	55.7% (45.0)	35.8% (31.1)	41.1% (33.1)	24.8% (24.3)	34.0% (37.7)	12.1% (7.3)	11.4% (9.2)	14.9% (11.4)

注（ ）は前回調査。

## (6) 学業の状況

学業の状況については、里親委託児、養護施設児及び母子施設児では「特に問題なし」が最も高く、その割合はそれぞれ43.9%（前回37.6%）、47.8%（前回46.2%）、45.4%（前回41.3%）となっているが、情緒障害児及び自立施設児では「遅れがある」が最も高く、その割合はそれぞれ53.4%（前回57.0%）、64.0%（前回66.9%）となっている。（P8表9）

## 2 委託（入所）時の家庭の状況

### (1) 養護問題発生理由

養護問題が発生した主たる理由を一つだけ尋ねた。上位の理由としては、里親委託児では「養育拒否」16.0%（前回19.9%）、「父又は母の行方不明」14.3%（前回14.7%）が多く、養護施設児では「父又は母の虐待・酷使」14.4%（前回11.1%）、「父又は母の放任・怠だ」13.8%（前回11.7%）となっている。

また、情緒障害児の場合には「父又は母の虐待・酷使」26.5%（前回22.9%）、「父又は母の放任・怠だ」16.4%（前回14.1%）であり、自立施設児では「父又は母の放任・怠だ」22.3%（前回20.7%）、「父又は母の虐待・酷使」17.0%（前回11.3%）となっている。乳児院の場合には「父又は母の精神疾患等」19.1%（前回14.9%）、「父又は母の虐待・酷使」9.2%（前回4.6%）となっている。

なお、一般的に「虐待」とされる「放任・怠だ」「虐待・酷使」「棄児」「養育拒否」を合計すると、里親委託児は全体の**36.7%**（前回40.4%）、養護施設児33.1%（前回27.4%）、情緒障害児47.9%

(前回 42.1%)、自立施設児 45.8% (前回 37.5%)、乳児院児 27.2% (前回 20.5%) となっており、前回調査に比し、里親委託児を除くすべての施設において虐待を理由とした委託及び入所の割合が高くなっている。(P9 表 11)

(2) 被虐待経験の有無及び虐待の種類

今回の調査から、新たに被虐待経験の有無及び虐待の種類について項目を加えた。

「虐待があり」の割合を見てみると、里親委託児で 31.5%、養護施設児で 53.4%、情緒障害児で 71.6%、自立施設児で 65.9%、乳児院児で 32.3%となっている。

また、里親委託児、養護施設児及び乳児院児でネグレクトが最も多く、その割合は 67.1%、66.2%、71.4%である。情緒障害児及び自立施設児で身体的虐待が最も多く、その割合は 60.5%、59.5%である。(P10 表 12)

	総数	虐待経験あり	虐待経験の種類 (複数回答)				虐待経験なし	不明
			身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待		
里親委託児	100.0%	31.5%	30.6%	4.9%	67.1%	15.3%	61.5%	6.6%
養護施設児	100.0%	53.4%	39.8%	3.9%	66.2%	20.4%	40.8%	5.5%
情緒障害児	100.0%	71.6%	60.5%	8.5%	47.1%	32.2%	26.7%	1.5%
自立施設児	100.0%	65.9%	59.5%	32.1%	45.4%	21.0%	26.5%	7.1%
乳児院児	100.0%	32.3%	31.4%	0.8%	71.4%	9.2%	63.4%	3.8%

注) 総数には不詳を含む

3 委託(入所)時の保護者の状況

委託(入所)時に「両親又は一人親あり」の割合をみると、里親委託児で 67.7% (前回 67.8%)、養護施設児で 83.2% (前回 91.5%)、情緒障害児で 87.3% (前回 85.3%)、自立施設児で 87.7% (前回 89.1%)、乳児院児で 89.0% (前回 84.6%) となっており、里親委託児で最も低くなっている。

「両親又は一人親あり」の児童についてみると、最も割合の多い保護者は、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児が「実母のみ」でそれぞれ 59.0% (前回 56.9%)、42.5% (前回 38.1%)、46.5% (前回 36.6%)、45.1% (前回 40.3%) であり、乳児院児が「実父母有」で 52.4% (前回 46.9%) となっている。(P10、表 13-1 P11 表 13-2)

	総数	両親又は一人親	両親ともいない	両親とも不明	不詳
里親委託児	100.0%	67.7% (67.8)	21.3% (11.8)	6.7% (8.1)	4.3% (12.3)
養護施設児	100.0%	83.2% (91.5)	8.6% (5.0)	2.2% (3.1)	5.9% (0.4)
情緒障害児	100.0%	87.3% (85.3)	8.5% (4.0)	0.6% (1.4)	3.5% (9.2)
自立施設児	100.0%	87.7% (89.1)	6.3% (5.1)	1.2% (2.8)	4.8% (2.9)
乳児院児	100.0%	89.0% (84.6)	2.1% (1.6)	2.0% (2.8)	7.0% (11.1)

注) ( ) は前回調査。

	総数	実父母有	実父のみ	実母のみ	実父養母	養父実母	養父養母	養父のみ	養母のみ	不詳
里親委託児	100.0%	21.1% (23.0)	14.0% (12.3)	59.0% (56.9)	1.5% (1.6)	3.6% (5.2)	0.2% (0.1)	0.4% (0.5)	0.2% (0.2)	0.1% (0.2)
養護施設児	100.0%	27.8% (29.4)	18.5% (22.7)	42.5% (38.1)	2.5% (2.6)	7.7% (6.2)	0.2% (0.2)	0.4% (0.5)	0.3% (0.2)	0.1% (0.0)
情緒障害児	100.0%	26.0% (35.3)	8.3% (8.9)	46.5% (36.6)	5.6% (6.3)	12.2% (12.2)	0.3% (0.3)	0.4% (0.5)	0.6% -	- -
自立施設児	100.0%	24.7% (24.8)	12.5% (16.9)	45.1% (40.3)	4.0% (5.2)	12.6% (11.7)	0.3% (0.5)	0.5% (0.2)	0.2% (0.1)	0.1% (0.2)
乳児院児	100.0%	52.4% (46.9)	2.9% (4.9)	42.6% (46.4)	0.2% (0.1)	1.5% (1.5)	0.1% (0.0)	0.0% -	0.1% (0.1)	0.2% (0.1)

注) ( ) は前回調査。

#### 4 児童を委託されている里親家庭の状況

##### (1) 里親申込みの動機

現に委託されている里親家庭の総数は 2,626 世帯となっており、前回調査の 1,958 世帯より 668 世帯増加している。(P14 表 16)

総数	児童福祉への理解から	子どもを育てたいから	養子を得たいため	その他	不詳
100.0%	37.1% (32.3)	31.4% (33.6)	21.8% (29.8)	8.5% (2.0)	1.2% (2.3)

注) ( ) は前回調査。

##### (2) 委託児童別里親家庭数

委託児童数は、「1人」が 51.8% (前回 55.5%) と最も高い。(P14 表 18)

総数	1人	2人	3人	4人	5人以上	不詳
100.0%	51.8% (55.5)	25.0% (24.3)	11.1% (8.8)	5.7% (5.0)	5.0% (5.2)	1.4% (1.4)

注) ( ) は前回調査。

##### (3) 里親の年齢

里親の年齢は「50歳代」が里父 39.0%(前回 42.2%)、里母 38.0% (前回 37.4%) が最も多く、前回調査と比べると「40歳代」〔里父 (前回 31.5%) ・里母 (前回 39.8%)〕が減少している。(P15 表 19)

	総数	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	いない	不詳
里父	100.0%	0.5% (0.2)	5.6% (5.5)	22.8% (31.5)	39.0% (42.2)	23.6% (16.1)	8.3% (4.4)	0.1% (0.1)
里母	100.0%	1.0% (0.3)	7.4% (10.0)	31.5% (39.8)	38.0% (37.4)	20.5% (11.5)	- (0.7)	1.5% (0.2)

注) ( ) は前回調査。

#### 5 母子生活支援施設入所世帯の状況

##### (1) 母子生活支援施設入所世帯数

母子生活支援施設に入所している世帯数は 4,056 世帯 (前回 4,343 世帯) で、児童「1人」

の世帯は 55.4% (前回 54.2%)、「児童 2 人」は 31.2 % (前回 31.7%)、児童「3 人以上」は 10.4% (前回 13.9%) となっている。(P16 表 23)

## (2) 入所理由

母子生活支援施設への入所理由は、「配偶者からの暴力」が 40.8% (前回 28.4%) で最も多く「経済的理由による」の 24.6% (前回 26.8%)、「住宅事情による」15.3% (前回 16.0%) となっている。(P16 表 24)

## 6 児童養護施設入所中の年長児童 (中学 3 年生以上) の状況

### (1) 就学状況

今回の調査で回答を得た年長児童数は、7,265 人(前回 6,467 人)であった。その内男子は 3,757 人 (51.7%)、女子は 3,480 人 (47.9%) である。

就学状況の割合は、次のとおりである。(P20 表 36)

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
児童養護施設 の年長児	7,265人 (6,467)	33.1% (33.5)	0.4% (0.9)	23.8% (22.8)	20.7% (20.2)	18.3% (17.8)	0.4% (0.6)	0.3% (0.6)	0.2% (0.1)	0.7% (0.7)	0.4% (0.5)	1.3% (2.2)	0.4% (0.2)

注) ( ) は前回調査。

### (2) 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、最も多く経験しているのは、「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の 93.0% で、逆に最も少ないのは「自分や友人たちと計画して旅行したこと」の 21.5% となっている。男女間で差の大きい項目は「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子が約 23.9 ポイント大きくなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で 1 人をいじめてしまったこと」が全体で 25.0%、「いじめを受けていたこと」が 38.6% であり、いじめた側は男子の比率が高く、いじめられる側は女子の比率が高い。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の 27.4% であり、女子が 10.5 ポイント男子より大きい結果となっている。(P20 表 37)

### (3) 大切なこと

大切なことと思うことについて、最も選択率が高かったのは、「健康であること」の 53.2% (前回 51.2%)、次いで「友達がたくさんいること」の 52.6% (前回 54.1%) で、「将来に夢を持っていること」の 41.8% (前回 49.1%) となっている。

逆に、最も選択率が低かったのは、「人がいやがる事をすすんでやること」の 6.8% (前回 8.2%)、次いで「勉強ができること」11.6% (前回 10.1%)、「7. 勇気をもっていること」の 18.8% (28.5%) となっている。

男女間で差の大きい項目は、「運動や歌などで、何か得意なもの (特技) があること」で男子が女子より 9.6 ポイント高いのに対し、「家族で仲良く生活すること」では女子が 8.2 ポイント、「勇気を持っていること」でも女子が 4.9 ポイントの男子より高区なっている。(P21 表 38)

### (4) 進学希望

養護施設児のうち、中学 3 年生の高等学校又は各種学校への進学を希望する児童の割合は、84.5% (前回 88.0%) であり、まだ考えていない児童は 8.3% (前回 4.4%)、進学を希望し

ていない児童は5.8%（前回6.6%）となっている。男子に比べ女子が約1.9ポイント高い結果となっている。（P22表39）

《高等学校（各種学校）進学希望》

	総数	希望する	考えていない	希望しない
中学3年生	2,404人	84.5% (88.0)	8.3% (4.4)	5.8% (6.6)
男	1,247人	83.6%	8.8%	6.2%
女	1,151人	85.5%	7.7%	5.5%

注) ( ) は前回調査。

また、養護施設児の中学3年生以上の年長児童全員の、大学又は短期大学への進学希望の割合は25.7%（前回21.4%）、考えていない28.1%（前回26.0%）、希望しない40.7%（前回46.5%）となっており、前回調査より進学希望が増加している。

性別では、高等学校（各種学校）の進学希望同様、女子の方が男子に比べ進学の希望が高い。（P22表40）

《大学（短大）進学希望》

	希望する	考えていない	希望しない
児童養護施設 の年長児	25.7% (21.4)	28.1% (26.0)	40.7% (46.5)
男	22.1%	29.5%	42.6%
女	29.5%	26.6%	38.9%

注) ( ) は前回調査。

#### (5) 将来の希望—家庭復帰、結婚、自立—

早くもとの家庭へ復帰したい者は、全体で37.7%（前回38.4%）であるが、14歳では45.2%、15歳では45.8%が希望しており、その後は年齢が高くなるとともに減少している。

早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は、42.0%（前回37.9%）で、年齢が高くなるとともに増加している。

施設を出て、自活することに自信があると答えた児童は、31.3%（前回31.5%）となっており、特に性別による差が大きく、男子が36.7%（前回37.7%）に対して、女子が25.6%（25.0%）となっている。（P24表42）

	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
児童養護施設 の年長児	37.7% (38.4)	42.0% (37.9)	31.3% (31.5)
男	36.5%	41.3%	36.7%
女	39.2%	42.7%	25.6%
14歳	45.2%	34.7%	28.6%
15歳	45.8%	38.8%	32.4%
16歳	37.1%	40.4%	29.6%
17歳	32.9%	44.3%	31.5%
18歳以上	28.2%	48.7%	31.3%

注) ( ) は前回調査。



## 7 児童自立支援施設の年長児童（中学3年生以上）の状況

### (1) 就学状況

今回の調査で回答を得た年長児童数は、1,019人(前回813人)であった。その内男子は629人(61.7%)、女子は387人(38.0%)である。

就学状況の割合は、次のとおりである。(P25表44)

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
児童自立支援施設の年長児	1,019人 (813)	72.5% (75.6)	14.3% (13.9)	5.0% (3.2)	3.0% (2.1)	2.0% (2.0)	- (0.1)	0.8% (0.1)	0.2% -	0.1% (0.5)	0.6% (0.5)	1.3% (2.0)	0.2% -

注) ( ) は前回調査。

### (2) 児童の生活行動経験

児童の生活行動経験について、最も多く経験しているのは、「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の92.0%、逆に最も少ないのは「一人で銀行や役所などで手続きをしたこと」の21.3%となっている。

男女間で差の大きい項目は「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子が男子に比べ25.5ポイント大きくなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で1人をいじめてしまったこと」が全体で44.6%(前回49.6%)、「いじめを受けていたこと」が43.2%(前回40.1%)であり、いずれの項目についても、女子の率が高い結果になっている。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の31.2%(前回27.7%)であり、女子が16.6ポイント以上高い結果となっている。(P25表45)

### (3) 大切なこと

大切なことと思うものについて、最も選択率が高かったものは、「家族で仲良く生活すること」の60.3%(前回60.3%)で、次いで「友達がたくさんいること」の50.9%(前回49.3%)、「5.健康であること」の45.1%(前回44.6%)となっている。

逆に、最も選択率が低かったのは、「勉強ができること」の7.3%(前回6.8%)、次いで「人のいやがる事をすすんでやること」の9.2%(前回9.5%)、「お金がたくさんあること」の20.3%(前回22.6%)となっている。

男女間で差の大きい項目は、「友達がたくさんいること」で男子が8.5ポイント大きいのに対し、「お金がたくさんあること」は逆に女子が10.7ポイント大きくなっている。(P26表46)

### (4) 進学希望

自立施設児のうち、中学3年生の高等学校又は各種学校への進学を希望する者の割合は、77.4%(前回68.0%)、まだ考えていない者は7.2%(前回7.5%)、進学を希望していない者は14.9%(前回23.4%)となっており、前回調査に比べ進学希望が大幅に増加している。

養護施設児と同様に、男子よりも女子の方が進学希望の割合は高い。

《高等学校(各種学校)進学希望》

	総数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
中学3年生	739人	77.4% (68.0)	7.2% (7.5)	14.9% (23.4)	0.5% (1.1)
男	468人	75.2%	7.5%	16.5%	0.9%
女	270人	81.1%	6.7%	12.2%	-

注) ( ) は前回調査。

自立施設児の中学 3 年生以上の年長児童全員の、大学又は短期大学への進学希望者の割合は 23.5% (前回 12.4%)、考えていない 33.1% (前回 31.7%)、希望しない 41.5% (前回 52.6%) となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では、高等学校 (各種学校) の進学希望と同様に女子の方が進学希望の割合は高い。(P27 表 47、表 48)

《大学 (短大) 進学希望》

	希望する	考えていない	希望しない	不詳
児童自立支援施設の年長児	23.5% (12.4)	33.1% (31.7)	41.5% (52.6)	2.0% (3.2)
男	20.8%	33.4%	43.6%	2.2%
女	27.9%	32.3%	38.5%	1.3%

注) ( ) は前回調査。

#### (5) 将来の職業の希望等—家庭復帰、結婚、自立—

早くもとの家庭へ復帰したい者は 74.7% (前回 78.0%)、早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は 54.1% (前回 52.2%)、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は 51.9% (前回 58.3%) となっている。(P28 表 50)

	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
児童自立支援施設の年長児	74.7% (78.0)	54.1% (52.2)	51.9% (58.3)

注) ( ) は前回調査。